

まえがき

『漢字筆順ハンドブック』の初版が発行されたのは、昭和五十五年二月でした。それから現在に至るまでの長い間、おかげさまで多くの方々にご活用いただいた本書ですが、このたび、主に次のような改訂を行い、第四版として刊行する運びとなりました。

○平成二十九年三月告示の「小学校学習指導要領」に示された学年別漢字配当表に基づき、配当学年の表示を改めました。また、新たに配当表に入った漢字で、手書きと教科書体活字とで字形に違いのあるものには、その解説を加えました。

○国語施策や漢字研究の現状をふまえ、解説部分にも加筆を行いました。また「漢字に関する資料・用語解説」を新設しました。

○巻末の「画数引き漢字索引」に加え、「音訓引き漢字索引」を新設しました。

このほか、より引きやすくなるよう紙面にも工夫を加え、二八六四字の筆順を収録しました。

今回の改訂にあたっては、伊藤文生先生に、第三版に引き続きご協力をいただきました。この場を借りて御礼申しあげます。

本書が皆様の学習においてはもちろんのこと、日常の文字を書く場面でもお役に立ちますことを願ってやみません。

令和三年六月

三省堂編修所

まえがき（初版）

私たちが日常文字を書く場合、やはり漢字の形や筆順は大切なことであり、それは小さい時にしっかりと身につけておくことが必要です。この点で小学校教育には大きな使命があります。もちろん、現在の小学校における国語教育、文字に関する指導は立派に行われています。しかし、問題がないわけではありません。

戦後の一時期、国語教育の中では、どうしたわけか筆順など全く顧みられませんでした。そのため、当時の子供たちは大人の思いも及ばない書き順で字を書いていました。たとえば、東の字は、まず短い横画四本、短い外側の縦画二本、左払い・右払いの順で書いてから最後に長い縦画を書いたり、ひらがなのすの字は、カタカナのナを書いてから○を書き加えたり、などの書き順です。

当然のことながら、このような事態に対して筆順の指導をすべきだとの反省がなされ、文部省に対しては指導の手引になるものをつくってほしいとの要望がおこりました。（『筆順指導の手びき』が出されたのは昭和三十三年のことでした。）そして、この文部省が出した手引では、一つの漢字は一つの筆順で教えるという方針になっていました。これは当然のことです。

ところが、その手引には「本書に取りあげた筆順は、学習指導上の観点から一つの文字については一つの筆順に統一されているが、このことは、本書に掲げられたもの以外の筆順で従来行われてきたものを誤りとするものではない。」と明記されているにもかかわらず、その後の指導が徹底しすぎたともいいましようか、その指導やテストの評価などで、手引に掲げられているもの以外の筆順はすべて誤りとされるようになってしまいました。

学校教育における筆順の指導は、時計の振子のように、全く指導されなかったという極端から、筆順をきわ

めて狭く考えて指導するという極端に振れたわけです。

漢字というものは、その形にしても、その筆順にしても、そんなに狭い考えで書くべきものではないのに、また、どうせ大人になればどっちでもよいことを一つを正とし他をすべて誤りとして処理され、入学試験や教員採用試験までもこのように処理されて人の進路が左右される、それでは困るという考えに立つて、この本を書きました。

本書は、日常よく使われる漢字二五〇〇字を選び、それによく見かける旧字体や特殊な字も加えて、その筆順のすべてをわかりやすく示しました。また、見出しの文字は毛筆で書きましたので、毛筆細字の手本となり、また、分解的に示してある筆順の文字はペン字で書いてあるので、よくわかり、親しみをもって見ていただけたらと思います。そのほか、漢字を美しく書くコツや、ひらがな・カタカナ・ローマ字の筆順もつけ加えてありますので、皆さんには便利に使っていただけたらと思います。

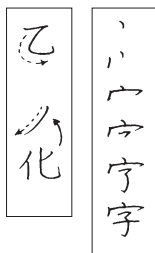
昭和五十四年十二月

江守賢治

一 筆順とは

筆順とは、一つの文字を書いていく順序をいい、書き順ともいう。(書き順という方がわかりやすいので小学校の低学年では、用語としてこの方を用いるのがよいと思われる。)

漢字では、画(点を含めて)を組み立てていく順序であるとともに、また、一つの画(線)をどちらの方から書いていくかも含まれていることを忘れてはならない。



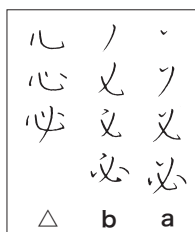
(一) きまった筆順がなぜ必要か

漢字を書く場合、どこから書き始めようと、どんな順序で書いていこうと、出来上がった字がその形になつていけばそれでよいではないかという、たいへん乱暴な考えがある。

しかし、いわゆる筆順は、長い間の筆写の習慣によつて

だんだん固まつてきた順序である。従つて、これらの筆順どおりに書けば筆の運びが自然で整つた美しい形に書くことができる。

もし、昔からの筆順と異なる順序で書くと、その文字の形がとりにくいばかりか、時には別の字に見えたりする不都合が生ずるのは当然である。たとえば次の**必**の字を見ても、昔から書かれてきた**a**や**b**の筆順で書かれた字の形と、昔からの書跡には見当たらない△印の筆順による形とは、かなり異なつて見える。



(二) 筆順は合理的にできている

筆順は、たいへん合理的にできている。まず(1)上の方から下の方へ書いていく。(2)左の方から右の方へ書いていく。以上の二つを組み合わせて(3)左上から書き始めて右下で書きおさめる。

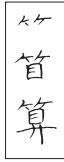
これらのほか、(4)まず中心をとつてしまうと形がとりや

一 基本編

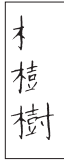
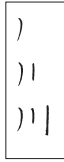
(一) 筆順についての基本的な考え方

漢字を書いていく場合、その書いていく順序には、次のような二つの大きな原則が考えられる。

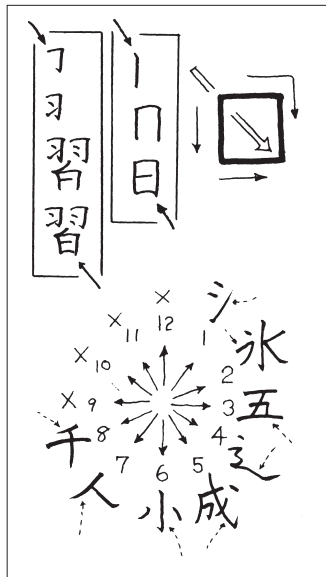
(1) 上から下へ書いていく



(2) 左から右へ書いていく



この二つの原則を組み合わせると左図の上のように、左上から書き始めて右下で書き終わるのが、最も基本的で多い筆順となる。



また、この二つの原則を一つの画にあてはめると、前図の下のように、ペンや毛筆で書ける方向と、書けない方向とがあつて、×印の方向に書く画はない。

なお、二つの大きな原則のほかに、原則らしいものを掲げれば、次のとおりである。

十

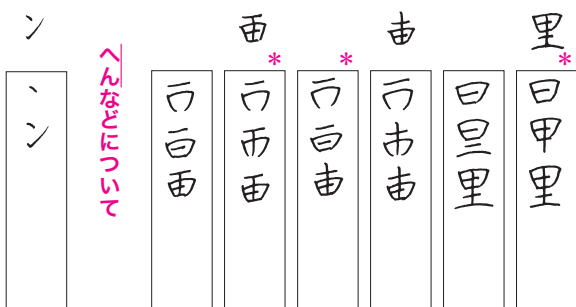
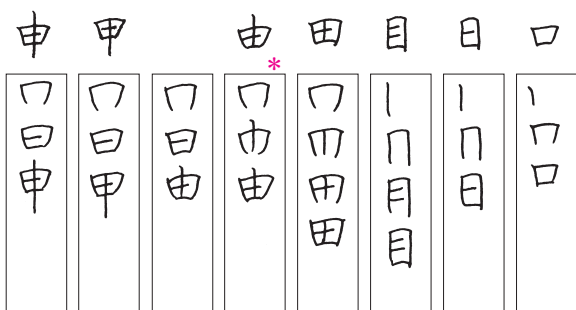
(イ) 横画がはつきりと長い字 (十・早など) では横が先であり、(ロ) この十の部分から書き始める字 (土・封など) でも横が先であるが、(ハ) 上の部分から続けている字 (王・至など) では縦が先である。

(二) 漢字構成の基本となる部分の筆順

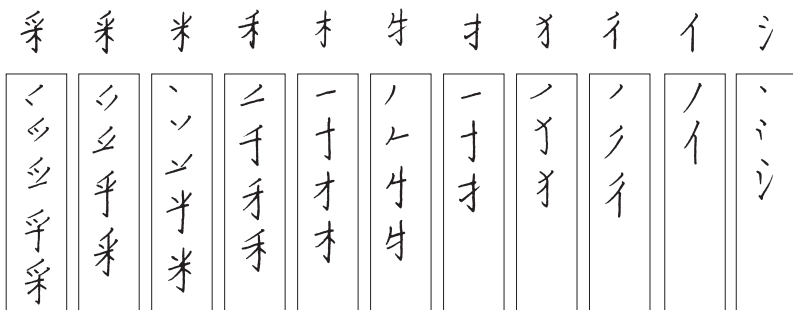
漢字のへん・つくりやかんむりなど、漢字を構成している基本となる部分をぬき出して、その筆順を示す。

筆順が二つ以上ある字の該当部分について、小学校で教える筆順の方には*の印がついている。

なお、ここである部分とは、漢字の部首とは別のものである。



へん となつていふ



〈備考〉

ン にすい
 シさんずい
 イにんべん
 イぎょうにんべん
 才けものへん
 才てへん
 牛うしへん
 禾ぎへん
 禾のぎへん
 米こめへん
 采のごめへん
 采(名称なし)
 口白 || 昭など
 目 || 自見など
 田 || 町番など
 由 || 油など
 里 || 野理など
 畝 || 専恵など
 畝 || 画など

(三) まちがいやすい筆順の一覧

可方女や犯など*印のついでに筆順は一つしかなく、また、一字の部分としてよく出てくる、基本的な筆順である。昇飛など※印のついでに筆順は、よくまちがえる筆順で、特に注意が必要である。発肅など◎印のついでに筆順は、一つの字に沢山の筆順があるので注意が必要である。卵には◎印がついている。これは小学校で習う字であるが、昭和三十三年発行の『筆順指導の手びき』にはない。差や善の箇所の、△印の筆順は、常用漢字の字体として許容の範囲をこえた形である。

①* 一 可

(河何荷歌なども同じ。)

②* 一 万

③* ニ 方

(放旅芳なども同じ。)

④ ロ 弓 另 別

⑤ 一 十 廿 世

(葉も同じ。)

⑥* く 女 女

(安案宴姿始姉なども同じ。)

⑦ 一 収

⑧ イ 印 印 印

⑨ 一 片 片

(版も同じ。)

⑩ 一 以 以

(似も同じ。)

⑪* 日 昇 昇

⑫* て 飛 飛 飛

⑬◎ 一 卵 卵

一 卵 卵

⑭ 一 不 不

(否杯なども同じ。)

⑮* 一 犯 犯

(狩猛なども同じ。)

二 一般編

この表には、常用漢字二二三六字、よく使われる人名用漢字・旧字体の漢字五四一字、計二七一七字の筆順を収録した。(本表では書き文字としての旧字体を示した。209ページ「活字だけの旧字体の筆順」参照。)

この表の使い方

- (1) 配列は代表的な音(または訓)によって五十音順とし、同音の場合は画数順に並べた。旧字体は画数に関係なく、新字体のすぐ後に示した。(読み方のわからない場合は、巻末の「画数引き漢字索引」を参照。)
- (2) 人は人名用漢字、旧は旧字体であることを示す。また、旧字体は……で囲んで示した。
- (3) 活字と書き文字とは、その形が必ずしも一致しないことがある。本表では昔から書きならわされてきた形を示した。
 - しんにょうは、えになつてゐる字でも、昔から書かれてきたえの形で、しめすへんは、前になつてゐる字でも、昔から書かれてきたえの形で示した。(209ページ「活字だけの旧字体の筆順」参照。)
 - いとへんは、活字の形の糸でなく、書き文字として一般の形々で示した。(学習漢字には糸の形の筆順も示した。)

なお、毛筆と硬筆とは、とめやはらいについて多少の違いがある場合もある。

- (4) 学習漢字についてはできるだけ標準の形(教科書体)にのっとりながらも美しい形の字を示した。そのため、標準の形と異なる場合は、見出し文字の欄にやや小さく教科書体の活字を示し、その下に違いを✓でわかるようにしてある。書く場合はどちらでもよいことになっている。(221ページ「許容される字形一覧」参照。)

- (5) 本表では筆順が二通り以上あるものは、もつとも一般的な筆順を先に示し、また『筆順指導の手びき』による筆順には*印を付した。(なお、いわゆる備考漢字の卵などの筆順はこの手びきに収録されていないので、手びきにある原則に準じて示した。)

- (6) 次の例のような場合、本表ではスペースの関係で(a)と(d)しか掲げていないが、組み合わせた(b)(c)の筆順もある。

職

- (a) 一 丁 耳 職 職 職
- (b) 一 丁 耳 職 職 職
- (c) 一 丁 耳 職 職 職
- (d) 一 丁 耳 職 職 職

- (7) ①…⑥の数字は、学習漢字の配当学年(小学校の何年で習う漢字か)で、①は一年、②は二年…を示す。

あ

あおい 人				アイ		ア
葵	曖	愛	挨	哀	阿	亞
12画	17画	13画	10画	9画	8画	8画
		④				

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

読み
美しい
書き文字
総画数
配当学年

よく使われる漢字の筆順

あし				アク	あきら	あかね
葦	渥	握	悪	悪	彬	茜
13画	12画	12画	12画	11画	11画	9画
				③		

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

□の中の上が教科書体活字の形で、その下に許容の形を示してある。しかし、書く場合、許容の形の方がむしろ一般的で、また美しい字の形ともなるので、それもあわせて解説した。ほとんど目だたない形から始まって、32までだんだん目だつ形になるように配列し、a b c 三つの段階に分けて表示してある。a がほんの少し異なる形、b が少し異なる形、c がやや異なる形である。

つけるか・はなすか。 a



とめるか・払うか。 a



短い画を斜め点にかえる。 a



短い画を斜め点にかえる。 a



点の方向。 a



へんの最終画は、とめても、払い上げてもよい。 a



はねの部分をとめてもよい。 a



画数引き漢字索引

本表(筆順「一般編」「特殊編」)に収録した漢字を画数順に配列しました。

えは書く場合はえと区別せず、一般にはえの形で書き、本表もそれに従っていますので、本索引もえの形で示して、3画と数えてあります。また、臣は7画、瓜は6画と数えてあります。

() は本表で採用している字形を示します。

この索引は活字の字形ですが、本表は筆写の形を示していますので、細部は必ずしも一致していません。

1画	乞 87	不 176	区 71	日 164	他 140	叱 101
一 39	也 192	中 148	匹 174	月 77	代 142	召 112
乙 45	亡 185	丹 144	午 82	木 186	付 177	台 142
2画	凡 187	乏 185	升 112	欠 76	令 204	四 97
七 101	刃 121	予 195	厄 193	止 97	兄 73	囚 105
丁 149	勺 103	五 82	収 105	比 172	冊 94	圧 36
乃 142	千 129	互 82	双 134	毛 191	写 102	冬 158
九 64	叉 89	井 124	反 170	氏 97	処 111	外 51
了 201	口 82	介 49	友 194	水 122	凹 44	央 44
二 164	土 157	今 89	太 141	火 46	出 109	失 102
人 121	士 96	仁 121	天 156	爪 153	凸 162	奴 157
入 164	夕 127	仄 217	夫 176	父 177	刊 55	尻 119
八 169	大 142	仏 179	孔 83	片 181	加 46	尼 164
刀 157	女 111	允 39	少 112	牙 48	功 83	巧 83
力 203	子 96	元 80	尺 103	牛 65	包 183	左 89
十 107	寸 124	公 82	屯 163	犬 77	北 186	市 97
又 188	小 112	六 207	巴 162	王 44	半 170	布 177
3画	山 95	円 42	幻 80	5画	占 130	平 180
下 46	川 129	内 163	引 39	且 54	卵 40	幼 195
三 95	工 82	冗 116	弔 149	丘 64	去 65	広 83
上 116	己 80	凶 67	心 119	世 124	右 40	庁 149
丈 116	巳 189	刈 55	戸 80	丙 180	可 46	弁 182
万 188	巾 69	切 128	手 104	巨 66	句 71	弘 83
与 195	干 55	分 180	支 96	主 104	古 81	必 174
丸 58	弓 64	勾 82	文 180	井 163	号 87	打 140
之 96	才 90	勾 164	斗 157	以 36	司 97	払 179
久 64	4画	匁 192	斤 69	仕 97	史 97	斥 127
及 64	丑 40	化 46	方 183	仙 130	只 144	旧 64

音訓引き漢字索引

本表(筆順「一般編」「特殊編」)に収録した漢字を、音と訓の五十音順に配列しました。同じ音あるいは同じ訓の場合は総画数順に配列しました。

常用漢字については「常用漢字表」掲載の音訓を、それ以外の漢字については代表的な音訓を掲げました。カタカナは音、ひらがなは訓であることを示します。

ゑは書く場合はえと区別せず、一般にはゑの形で書き、本表もそれに従っていますので、本索引もゑの形で示しています。

() は本表で採用している字形を示します。

この索引は活字の字形ですが、本表は筆写の形を示していますので、細部は必ずしも一致していません。

ア	あおい	上 116	あく	あさい	あせ	頭 160
ア	青 125	拳 66	明 190	浅 130	汗 55	あたらしい
亜 35	葵 35	揚 196	空 71	浅 130	あせる	新 120
亞 35	あおぐ	擧 66	開 50	あざける	焦 114	あたり
阿 35	仰 68	あかるい	あくた	嘲(嘲)	あそぶ	辺 181
アイ	あか	明 190	芥 49	151	遊 195	邊 181
哀 35	赤 127	あかるむ	あくる	あさひ	あたい	あたる
埃 212	垢 214	明 190	明 190	旭 69	価値 46	当 158
挨 35	あかい	あき	あける	あざむく	値 146	當 158
愛 35	赤 127	秋 106	明 190	欺 62	價 46	アツ
曖 35	あかす	あきなう	空 71	あざやか	あたえる	圧 36
あい	明 190	商 113	開 50	鮮 132	与 195	幹 36
相 134	飽 184	あきら	あげる	あし	與 195	壓 36
藍 199	あかつき	彬 35	上 116	足 138	あたたか	あつい
あいだ	暁 69	あきらか	拳 66	脚 64	温 46	厚 84
間 57	暁 69	明 190	揚 196	葦 35	暖 146	惇 110
あう	あかね	晃 85	擧 66	あじ	あたたかい	淳 110
会 49	茜 35	あきらめる	あご	味 189	温 46	敦 163
合 87	あからむ	諦 155	顎 53	あじわう	暖 146	暑 111
逢 184	赤 127	あきる	あこがれる	味 189	あたたまる	渥 35
會(會) 49	明 190	飽 184	憧 115	あずかる	温 46	熱 165
遭 137	あからめる	アク	あさ	預 195	暖 146	醇 111
あお	赤 127	悪 35	麻 187	あずける	あたためる	あつかう
青 125	あかり	悪 35	朝 150	預 195	温 46	扱 36
蒼 136	明 190	握 35	あざ	あずさ	暖 146	あつまる
	あがる	渥 35	字 100	梓 99	あたま	集 107